

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第1区分
 【発行日】令和5年10月30日(2023.10.30)

【公開番号】特開2022-75478(P2022-75478A)
 【公開日】令和4年5月18日(2022.5.18)
 【年通号数】公開公報(特許)2022-087
 【出願番号】特願2021-88826(P2021-88826)
 【国際特許分類】

G 0 1 N 3 0 / 0 2 (2 0 0 6 . 0 1)
 G 0 1 N 3 0 / 2 6 (2 0 0 6 . 0 1)
 G 0 1 N 3 0 / 4 6 (2 0 0 6 . 0 1)
 G 0 1 N 3 0 / 8 6 (2 0 0 6 . 0 1)
 G 0 1 N 3 0 / 2 4 (2 0 0 6 . 0 1)

10

【 F I 】

G 0 1 N 3 0 / 0 2 Z
 G 0 1 N 3 0 / 2 6 M
 G 0 1 N 3 0 / 4 6 E
 G 0 1 N 3 0 / 8 6 D
 G 0 1 N 3 0 / 2 4 A

20

【手続補正書】

【提出日】令和5年10月20日(2023.10.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0064

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0064】

また、第4の制御画面440には、入力された期間に基づいて、試料供給部170、複数のチャンネル部10、質量分析装置200およびデータ処理部408の動作期間のグラフが表示される。図14の例では、全部のチャンネル部10ではなく、選択部402により選択された2つのチャンネル部10の動作期間が表示される。使用者は、第4の制御画面440に表示されたグラフを視認することにより、複数のチャンネル部10による測定が干渉しないように各期間を容易に入力することができる。

30

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0081

【補正方法】変更

【補正の内容】

40

【0081】

バッチ分析の開始が指示された場合、分析実行部407は、ステップS10で生成されたバッチファイルに従ってバッチ分析を実行する(ステップS12)。ここで、表示制御部401は、ステップS10で生成されたバッチファイルのテーブルと、現在の使用されているチャンネル部10の接続状態を示す流路図とを示す図17の第7の制御画面470を表示部360に表示させる(ステップS13)。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0082

【補正方法】変更

50

【補正の内容】

【0082】

その後、分析実行部407は、バッチ分析が終了したか否かを判定する（ステップS14）。バッチ分析が終了していない場合、分析実行部407はステップS12に戻る。これにより、ステップS12でバッチ分析が継続され、ステップS13で第7の制御画面470の表示内容が更新される。バッチ分析が終了するまでステップS12～S14が繰り返される。分析実行部407は、チャンネル部10ごとに分析の中断の指示を受け付けてもよい。この場合、中断が指示されたチャンネル部10とは別のチャンネル部10について分析を継続するか否かが設定されてもよい。

【手続補正4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図2

【補正方法】変更

【補正の内容】

10

20

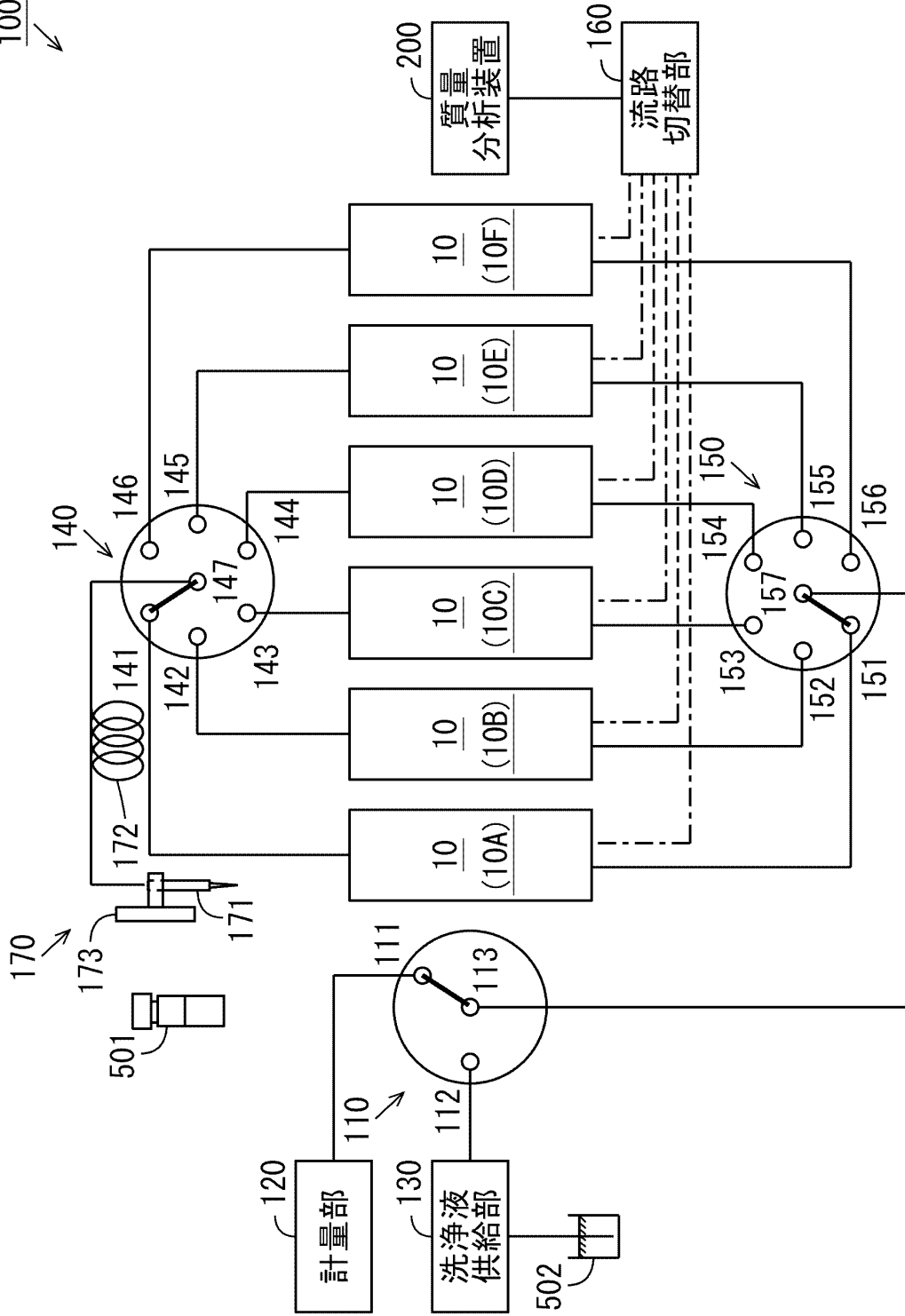
30

40

50

【 図 2 】

100 ↙



10

20

30

40

50